名古屋タイムズ

2007年(平成19年) 6月6日(水曜日)

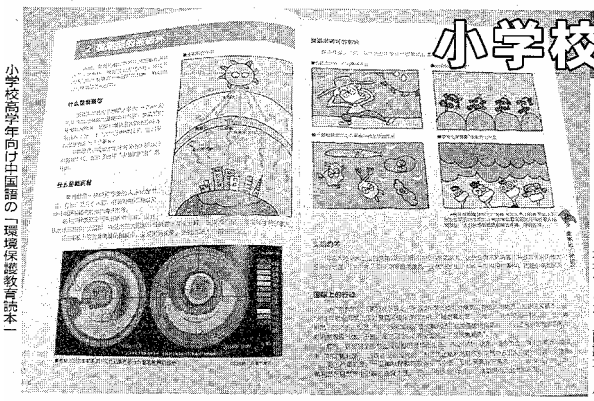
ニュース特捷隊

環境教育 待ったなし

好楽超大国の光明に？

名古屋の企業が中国語エコ教材製作

小学校高学年用



小学校高学年向け中国語の「環境保護教育読本」

環境関連賞受賞のフルハシ環境総研

名古屋から世界に環境教材を発信！ 環境経営コンサルティングなどを行うフルハシ環境総合研究所（名古屋市中区）が中国の子ども向けに作成した環境教材がこのほど中国で環境科学普及への貢献を顕彰する賞を受賞した。経済成長が著しく来夏に北京五輪を控える中国だが、一方で環境汚染が深刻化している。教材は大人も十分学べると評判で中国環境問題の救世主となれるか？ （竹）

同研究所は環境分野に特化したシンクタンク。本業リサイクルの会社から2001年に独立。環境コンサル業を中心に人づくりやワークショップ（WS、体験型の講座）に力を入れ、国内の企業や行政、海外3カ国（中国、ドイツ、オーストリア）の行政向けに活動している。中国向けの教材作成は国際事業の一環。上海市近郊の江蘇省蘇州市にある系列会社を足場に今回の事業に至った。

「環境保護教育読本」（05年11月発行、100円、価格非公開）は、教科書ではなく副読本。小学校高学年用を中国内の企業が通常朝礼表記だが一楽しみ。

「子らに環境意識を」

大人も学べる 中国内で関心高まり

「環境問題に関心の高い中国人は意外に多く、早急に教材を取り入れたいという姿勢に驚いた」と同研究所の船橋康貴社長（47）。「将来を担う子どもたちに環境保護の意識を浸透させたい。彼らの今後の言動を左右するかもしれないので、慎重かつ責任を持って製作に臨んだ」と続けた。

文化の違いから表記の厳しい検閲に遭遇したが、「意図については素直にうれしかったが特に狙っていたわけではない。言語さえ替えればどこの国でも使える教材です」（船橋社長）と胸を張る。

今後はアジアを中心に依頼があれば積極的に教材製作に取り組む姿勢。

教材製作者で同社名古屋所長の宮田佳織さん（32）は「自分たちに身近なことからやる。環境世の中で生命の尊さをSを導入して生徒参加型の教材にした。WSの代表例は量販店を訪問して地球環境に配慮した商品やパッケージを発見したり、ごみ軽減のためのアイデアをゲーム形式で発表させたりするなど工夫を凝らした内容になっている。

賞状を持つ船橋康貴社長と教材を手にする宮田佳織さん

しくないと身に付かない」との考えから認可を得てゴシック体にし、W保護への関心や危機感をあおるだけではなく、自ら行動して満足感を得て、楽しみながらプログラムを作りたい。わたしたちがかかわった人からイデアをゲーム形式で発普及し、意識が広がり行動に移ることを信じ、活動していきたいと話す。

「環境問題について名古屋からグローバルに発信していきたい。各地域で実になるものをつくるのが大切。何か支障が起きてからでは遅い。今やれるうちに取り組まない」と。自殺者が多い最近のSにしたセミナーやプログラム作りも行いたい。あ、会社の使命として考えていきたい」と船橋社長。

近年異常気象が報じられることが多い。地球環境保護のために各自で何ができるのか？ 電気を小まめに切ったり、車を使わずに電車を利用する。省エネ運動は一昔前からある。今や企業、自治体単位で環境問題に取り組むのが必然の世の中になってきているのは確かだ。

教材の日本語版はない。国内での用途は中国人労働者の研修用など。教材の問い合わせ、申し込みは同研究所☎052（324）5335-1。